Joy風
Faculty of Informatics
Shizuoka University Newsletter
Vol.21, October 2018
http://www.inf.shizuoka.ac.jp
October2018
vol.21
静岡大学情報学部

行事報告

Report of events

平成 30 年度入学式・保護者懇談会

情報学部学生委員会　杉浦 彰彦

平成 30 年度の入学式は、4 月 4 日（水）10 時から静岡県コンベンションアーツセンター（グランシップ）にて行われました。本年度は、情報科学科 102 名、情報社会学科 70 名、行動情報学科 73 名、情報科学科編入生 2 名の合計 247 名の新入生を迎えました。

当日午後には穏やかな天候の中、新入生の保護者の皆様を対象とした「情報学部保護者懇談会」が開催され、多くの保護者の皆様にご参加をいただきました。懇談会では、遠藤正之学生委員長の司会進行により、近藤真学部長はじめ、新谷誠情報科学科長、大島律子行動情報学科長、杉山岳弘情報社会学科長、太田剛教務委員長、学生委員長、西村雅史キャリア支援室長、吉田寛国際交流委員長から情報学部の現状、教育、就職、学生生活等の説明をさせていただきました。また、本学部の同窓会組織である浜松工業会会長藤井彰様からも御挨拶を頂戴しました。

浜松市をはじめ静岡県内、愛知・岐阜・三重県を中心に全国から 207 名の多くの保護者の皆様にご参加いただきました。また 176 名の保護者の方から、アンケートのご回答をいただきました。多くの貴重なご意見を下さり、誠にありがとうございます。今後の学部運営に反映してまいります。

保護者懇談会会場の様子（2018/4/4）

新入生歓迎合宿 in 伊良湖

情報学部学生委員会　尾張 正樹

4 月 21 日（土）から 22 日（日）の午前にかけて、愛知県渥美半島の休暇村伊良湖にて情報学部の新入生歓迎合宿が行われました。この新入生合宿は、毎年行われている情報学部の良き伝統です。今年は情報科学科、行動情報学科、情報社会学科から 222 名の新入生が参加し、大盛況のうちに終わりました。

本合宿では、毎年情報学部 2 年生以上の上級生の有志が中心となって企画から運営までのすべてを担当しました。今年も 50 名の上級生スタッフが、新入生の時に受けた感激や充実感を後輩に引き継ぐ意気込みで、様々なイベントの企画・運営を行いました。

合宿では、バス移動中の自己紹介にはじまり、入村式、バーベキュー、レクリエーションなどのイベントが多数催されました。入村式に続いて行われたバーベキューでは、慣れない火おこしに新入生の多くは苦戦をしていました。しかし、借り人競争、尻尾とり、ビンゴゲームと、上級生が企画したレクリエーションに参加するにつれ徐々に緊張がほぐれ、これから一緒に学ぶ仲間と良き絆を作ることができました。上級生スタッフにとっても、リーダーシップを取ることの難しさを感じ、大きなイベントを企画運営することの達成感を味わうことができました。また、新入生と先輩、教員との交流も行われ、学部全体の親睦を深める有意義な合宿となりました。

新入生合宿（2018/4/21-22）

2018 年度夏季オープンキャンパス

情報学部広報委員会　田村 敏広

2018 年 8 月 7 日（火）に静岡大学情報学部夏季オープンキャンパスが開催されました。当日は天候にも恵まれ、624 名が来場いたしました。今年度は昨年夏に完成した共通講義棟も使用し、快適な環境の中で実施することができました。また、ミニ講義、研究室展示、個別相談のいずれも例年を上回る盛会となりました。

今回のオープンキャンパスでは、教員による静岡大学情報学部の入学試験・就職・教育・福利厚生（学生生活）に関する個別説明会や現役学生による個別相談会のほか、10 研究室による研究やゼミ内容等の展示、各学科の教員によるミニ講義が行われました。ミニ講義は、大学で行われている講義や教員の研究内容を高校生にもわかりやすく紹介するもので、小暮悟教員（情報科学科）による『音声認識のこれまでとこれから』、永吉実武教員（行動情報学科）による『データ・情報・知識とは何か？：経営情報学の観点から』、藤岡伸明教員（情報社会学科）による『情報化・グローバル化とコミュニティの変容』の三つの講義が行われました。

秋季オープンキャンパスは、2018 年 11 月 10 日（土）に、「第 23 回テクノフェスタ in 浜松」「第 19 回静大祭 in 浜松」と同時開催されます。皆様のご来場をお待ちしております。

オープンキャンパス（2018/8/7）

先端情報学実習

世話人会／情報科学科・教授　竹内 勇剛

２年目を迎えた先端情報学実習では、その一つの特徴でもある「優先配属制度」を初めて運用しました（３年次学生が対象）。この制度は先端情報学実習に携わっている学生がこの制度の適用を希望し、かつ一定の条件を満たした場合、通常の研究室配属の方法とは異なるプロセスで学生が希望する研究室に優先的に配属されるものです。さらにこの制度を活用しますと、学生が所属する学科とは異なる情報学部内の他学科の研究室で、先端情報学実習で取り組んでいる研究テーマを継続して卒業研究とすることができます。今回はこの制度が適用された学生が 17 名おり、そのうち 10 名が他学科の研究室で卒業研究に取り組むことになりました。

このように先端情報学実習は、意欲がある学生が研究活動に早期から取り組め、学科の枠を超えて横断的に先端的な情報学と向き合える「新しい学びのシステム」として発展してきています。なお、これまでの成果の一部は情報学部の公式 Web サイトで頻繁に紹介されていますので、是非ご覧になってみてください。

先端情報学実習 プロジェクト紹介① 見えない価値を測る～情報の経済価値分析プロジェクト～

情報科学科３年　神田 健志

私は２年次から、情報社会学科の高口先生と情報科学科の木谷先生が担当している先端情報学実習を履修しています。このプロジェクトでは、『見えない価値を測る』ことがテーマになっていて、異なる学科のメンバーと一緒に取り組みました。プロジェクトを通じて、目には見えない感覚的な情報を可視化することの面白さと難しさを実感しました。そこで、３年次の研究室配属では、優先配属制度を利用し、情報社会学科の高口研究室に配属されました。研究室では、これから意思決定の際の要因分析や価値判断について研究を進めていきたいと思っています。先端情報学実習は、他の講義と異なり、学生と教員間の距離が近く、学習内容やテーマを学生自身が決められることでより深く、意欲的に学習できるというようなメリットがあると感じました。また、優先配属制度を利用し他学科の研究室で学べることは、幅広い分野の知識を高いレベルで学習できる点で有益だと感じています。

先端情報学実習 プロジェクト紹介② コンピュータによる言語理解の研究

情報社会学科３年　清田 直希

私は普段、何気なく使っている言語に興味がありました。本プロジェクトでは、私たちが日ごろ使う言語をコンピュータで扱う「自然言語処理」の研究を行っています。

本プロジェクトでは、まず自然言語処理の基礎やコンピュータで扱うために必要な機械学習についてを研究室に所属している先輩方と一緒に輪講というスタイルで学びました。輪講とは、１つの書籍の内容を数人の担当者が担当分の箇所を発表していくことです。そうすることで他者の考えを取り入れたり、先輩方から直接のご指導を頂けることができます。こうして知識を取り入れていきました。そして、研究では「書き言葉」の言語処理を行っています。言語処理といっても、言い換えや「これ」「それ」などの指示語はコンピュータにとっては理解しがたいものです。機械が正しく言語を理解するために、現在は司法試験を用いて研究しています。今後もこの研究を進めて、言語処理の精度を高めたいと思います。

先端情報学実習 プロジェクト紹介③ 学科の壁を飛び越える

行動情報学科３年　武田 玲志

私は「実世界と数理世界を結ぶモデリングとシミュレーション」というプロジェクトに参加しています。このプロジェクトにはいくつものサブプロジェクトがあります。そのなかで私は、行動情報学科でありながら情報科学科の先生である尾張先生のもとで，量子情報科学の勉強をしています。具体的にいうと私は量子力学に基づいて動作するコンピュータを考えて、それで機械学習させるとどうなるか？というような、ワクワクするようなまさに「先端」の研究をしています。私はもともと数学や物理の研究をしたいと思っていたので、先端情報学実習のおかげでその思いを叶えられたといっても過言ではありません。

情報学部では、自分の所属する学科の研究室にしか入ることができません。しかし、先端情報学実習には優先配属制度というものがあって、それを利用すれば、他学科の研究室に入ることができます。その制度のおかげで、学科の壁を飛び越えて尾張研に入ることができました。

先端情報学実習 プロジェクト紹介④ オープンな情報サービス計画提案方法の研究とその実践

情報社会学科３年　豊田 千沙都

このプロジェクトに２年後期から参加しています。最初にプレゼンテーション制作のワークショップがあり、ストーリーの組み立て方など、サービス計画を提案する上で欠かせないプレゼンテーション能力を身に着けました。３年前期では、先端情報学実習を受講しているメンバーでチームを組み、地域金融機関主催のビジネスコンテストに応募しました。

私は情報社会学科に所属していますが、プレゼンテーションやマーケティングに興味があります。これらをメインで学んでいるのは行動情報学科であるため、学科を超えて学べる、先端情報学実習に参加しようと考えました。行動情報学科の講義も積極的に履修していますが、特に先端情報学実習を通して、自分が本当にやりたいこと、向いていることが何かを明確にできました。また、研究室の優先配属権を使用し、行動情報学科の湯浦研究室に配属されました。同期メンバーの多くが先端情報学実習に参加していたこともあり、学科関係なく楽しく活動できています。今後は研究室にて、更にプレゼンテーションやマーケティングについて深めていきたいです。

研究室合宿にて同期メンバーと（本人左）

新任教員の抱負

Aspirations of newly appointed faculty

地理情報科学や都市環境デザインへの貢献

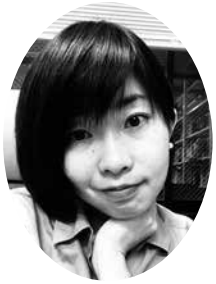
情報社会学科　秋元 菜摘

地理的な位置情報の重要性が身近に感じられる時代となりました。全世界で情報を共有するインターネットにおいても、現実の身体・デバイスを特定する有用なデータです。現在、人間は未だ生物という固有の身体とそこに依拠した「意識」にある程度の信頼性を置いていますが、真の“情報社会”が到来するときには、それに応じた社会システムが求められます。私自身は幼い頃からコンピュータに親しみ、ロボット／ AI と人間について考えてきたため、情報学部・工学部をはじめ関連する多彩な専門家が揃っている浜松キャンパスは研究だけでなく人生においても非常に魅力的な環境です。

私の研究は都市地理学や空間情報科学に基盤があります。地理情報システム(GIS)を利用して都市の生活環境について空間解析を実行したり、人口や施設などの望ましい空間配置をシミュレーションして都市モデルや都市計画・政策に照らして検討したりしています。IT による生活環境の構築や都市工学系の先生方との連携ができれば、より有意義な研究へ深められると考えています。また、情報技術や情報・数理データサイエンスを意識した教育を実践できるよう努めます。

情報社会と専門知：法律学を通して

情報社会学科　郭 薇



今年 10 月に着任しました郭薇（かくび）です。法社会学を専攻し、法に関する情報（法情報）の形成・流通とその効果について研究しています。法社会学は、法学の一分野ですが、人々の法意識や法の社会効果を探求する学問です。

情報技術の発展によって、法システムは挑戦に直面しています。新たな情報の生産・流通・利活用に対して適切な規律を提供しうるかという課題はもちろん、法制度の利用方法にも変化が起きっています。訴訟を経験せず、人々は自ら法情報を入手し、それらを基準に行動することも法適用の一種となります。一方、専門家以外の人々も法に関する見解を発信し、近年では一般の方による法制度や法曹への批判がしばしばネットで見られるようになりました。このように、法情報の変化から、広い意味で情報社会のルール・秩序感覚の変化を見定めることができます。

私は、法社会学研究を通じて、法の専門知と人々の日常感覚を融合させる情報法学を目指しています。静岡大学情報学部では、将来様々な分野の professional を目指す学生と一緒に議論し、情報を通じてルールのあり方を検討していきたいと思います。

なぜプログラミングは難しいと言われるのか？―認知科学からの挑戦―

情報科学科　遠山 紗矢香

「認知科学」という学問領域の立場から、プログラミング教育をテーマとした実践研究に取り組んでいます。小学生から大学生までの幅広いプログラミング学習者のみなさんを対象としています。また、プログラミング教育を学校等で行うための先生方向けの研修会講師も担当しています。現在、子ども達に対するプログラミング教育は非常に注目されていますが、実は、プログラミングが人のどのような認知機能を向上させるのかについては、今も様々な角度から研究が進められているところです。私のアプローチでは、プログラミングを行っている子ども・大学生・先生方の観察を通じて、私たちが普段使っていることば（日本語）や日常生活とプログラミングの違いが、プログラミング学習を難しくしている可能性が示されてきました。学習場面の観察・分析は「人はどのように物事を理解していくのか」を扱う認知科学が得意とするところです。今後もプログラミングと認知科学の知見を融合的に扱いながら研究を進めていきたいと思います。

７月に開催させていただいたイベント「情報学ワークショップ」もプログラミング教育に関するものです。本冊子の開催報告もぜひご覧ください。

学生紹介

Student's experience

ベルク大学ヴッパタール留学記

情報学部情報社会学科　小林 大晃

人生初の海外に夢を抱いてドイツに到着したのは、昨年 10 月３日でした。

目に写った様々なものが私の脳を刺激し、１年を迎える今でも、Try&Error の連続です。ここでは、ドイツ語の授業はドイツ語で行います。その結果、１ヶ月もすると聞き取れてきて、不自由なく買物ができ、３ヶ月を過ぎると、電車とバスを乗り継ぎ一人でスキー場に行けるようになりました。特にオーストリアの標高 3000m 以上での山スキーは、感動の連続でした。

この大学では、色々な講座を英語で受講できます。条件は CEFR が B1 以上で、B2 の私は、３講座を英語で受講しました。

休日には、ドイツ人学生の家に招かれて食卓を囲み、その家族と深夜まで会話をしたり、アフリカの留学生で、内戦のためクリスマスに帰国できない学生と、この時期一緒に過ごしたりと様々な方とふれあいました。その結果、私の誕生日会は、60 名が集まり、稀に見る大人数で私自身驚きました。さらに、静岡大学にも興味を持ってくれて、私の帰国後の９月下旬に Wuppertal 大学生２名が浜松キャンパスを見学に来ることは嬉しい限りです。

帰国後は、この１年間のドイツ留学を思い出に終わらせることなく、さらなる出発点としてがんばっていきます。

平成30年度　キャリア支援室の取組み

Student career support

情報学部キャリア支援室　湯浦 克彦

キャリア支援室は、学生の就職活動を支援する組織ですが、1-2年生の段階から学生が自分の将来像を描きそれに向かって学業や課外活動を自主的に実施することや、就職の対象となる職種や企業・組織を調査することを含めて、入学から進路決定までの過程を総合的に支援しています。教員のほかキャリア支援アドバイザを含めた8名で、キャリア意識啓発のためのガイダンス、企業・官公庁へのインターンシップ、合同企業説明会の開催、OB・OG会組織との連携による情報交換などを実施しています。

平成30年度は、9月末現在、情報学部の学部生のうち76.0%、修士課程の大学院生のうち88.9%が内々定を得ており、ほぼ例年通りの内定率を達成しています。引き続き、未内定学生のための支援に尽力しているところです。

情報学部の卒業生は、情報技術の提供側の企業（IT企業）だけでなく、利用側である製造業、金融業、公官庁、あるいはネットサービスの企業などにも進路を広げています。企業は、情報技術を用いた事業改革を進めるなかで、見通しのきかない中に針路を指し示すことのできる人材を求めています。そのような企業の求めに応えるには「自分で考え行動する力」が必要です。

キャリア支援室では、このような力を育成する機会として、インターンシップへの参加を奨励しています。夏期や冬期の休暇中などの1日ないし10日ほどの期間ですが、学生が企業の職場のなかで業務を体験し、あるいは企業人と意見交換を行います。5日間以上の場合には、インターンシップの前にWebによる対象企業の調査に関する報告会を実施し、さらにインターンシップの後に実習内容や実習で得たことに関する報告会を実施します。教員や他の学生たちと議論する中で、自分で考え行動する力をより高めることができます。

大学院新入生研修会（2017/4/7）

情報学ワークショップ報告

Report of workshop on Informatics

「地域とともに発展する情報学」を開催しました（情報学研究推進室 主催，地域連携推進室 共催）

情報科学科　遠山 紗矢香

地域における情報学の視点から、産業界の方や中学校・高等学校等の先生方、近隣にお住まいの方といった多様な立場の皆様と議論を深めるためのイベントを実施しました。今回はプログラミング教育の話題提供として、産官学連携事業として情報学部が参画している「浜松ITキッズプロジェクト」の成果と今後についてお話いただきました。さらに、情報学に関わる幅広い研究をテーマとした17件のポスター発表（内3件は英文での発表）、学習者中心の観点からのICT活用教育の理論・実践とITキッズプロジェクトの関係について豊福晋平先生（国際大学GLOCOM）からのご講演をいただきました。

おかげさまで本イベントは、3連休最終日の開催だったにもかかわらず、高校生、中学校・高等学校や大学の先生方、小学生等の保護者の皆様、行政関係の方、プログラミングに関係する企業の方や市民の方など、多様なお立場から60名以上の皆様にお集まりいただきました。回収させていただいたアンケートのご回答は、今後も同様のイベントに参加したい、今後の活動の参考になる知見が得られたといった前向きなもので占められていました。ご登壇者・ご発表者の方のご貢献と、参加者の皆様によるご議論によりこのような成果が得られました。今後も地域に根ざした国立大学情報学部として、新奇な企画を実施して参りたいと思います。

当日の様子は7/17（火）静岡新聞朝刊22ページに掲載されました。

ポスター発表を聴講する女子高校生（2018/7/16）

学位記授与式・卒業祝賀会のご案内

平成31年3月20日（水）に学位記授与式と卒業祝賀会が行われます。学位記授与式はアクトシティ浜松（大ホール）、卒業祝賀会はホテルクラウンパレス浜松にて開催されます。

学位記授与式におきましては、ご臨席の保護者様が多数の場合には十分な席数を確保することが困難であることを予めご承知おきください。

また、卒業祝賀会は卒業生･修了生および教職員のみの参加となっておりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

Joy風 vol.21 October2018

お問い合わせ　〒432-8561 浜松市中区城北3-5-1 静岡大学情報学部事務局
TEL：053-478-1510・1511　FAX：053-471-0249
学務窓口 pr-gakumu@inf.shizuoka.ac.jp　広報窓口 prcom@ml.inf.shizuoka.ac.jp

情報学部のウェブページをご覧ください。
情報学部のウェブページに最新情報が掲載されていますので、どうぞご覧ください。

http://www.inf.shizuoka.ac.jp/